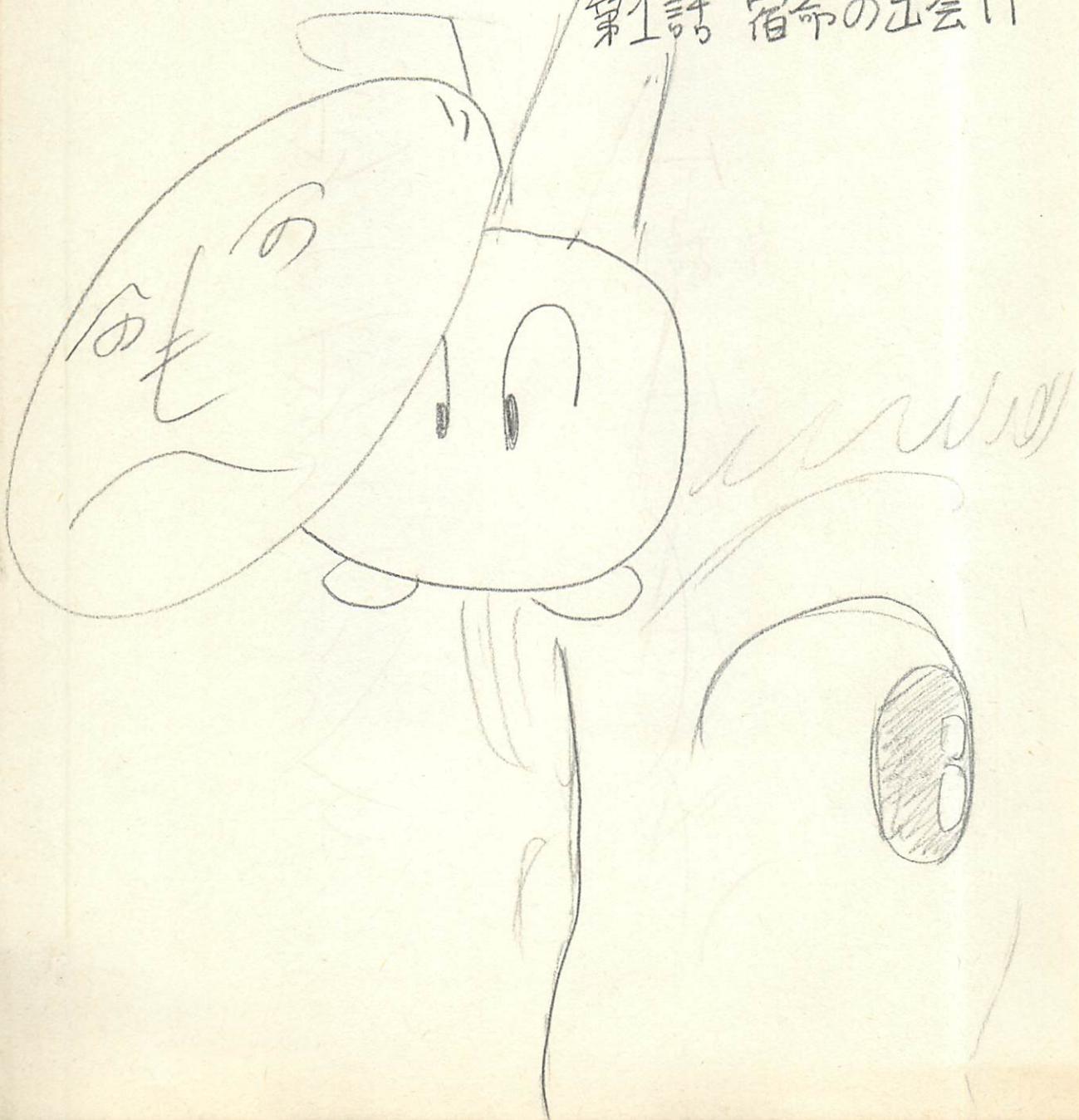


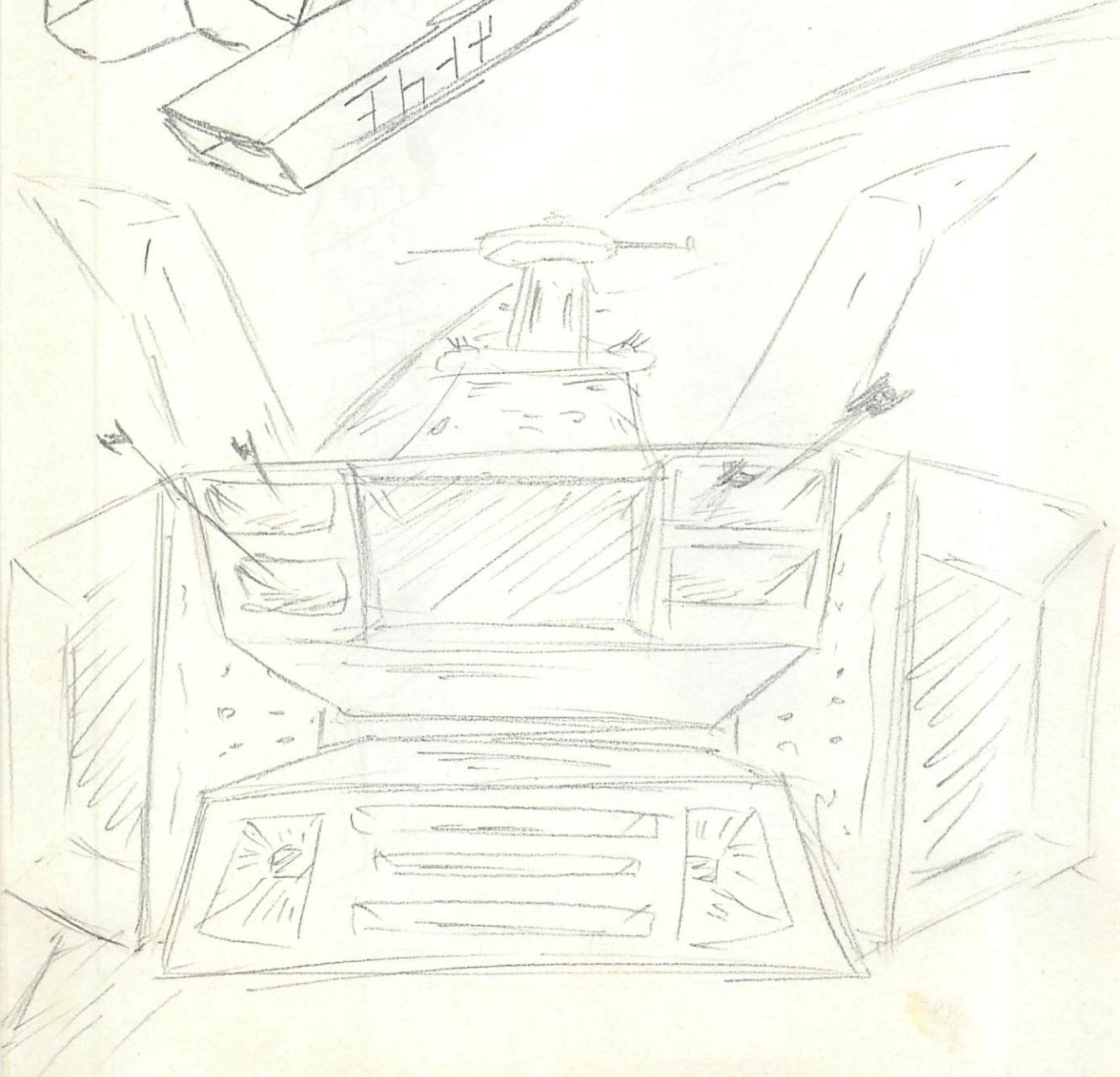
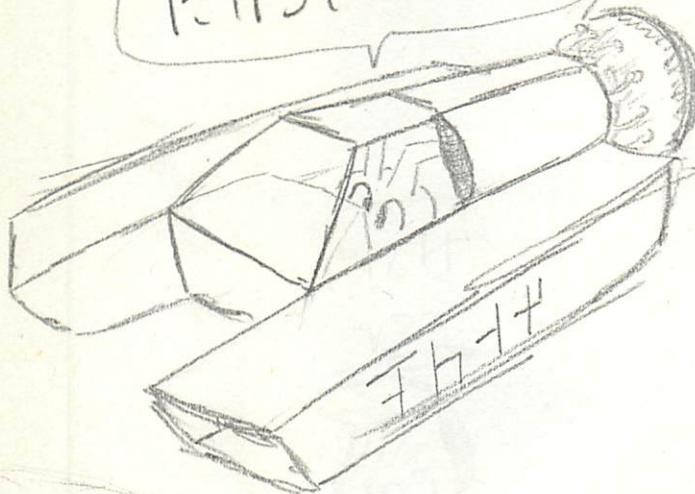
超人少女

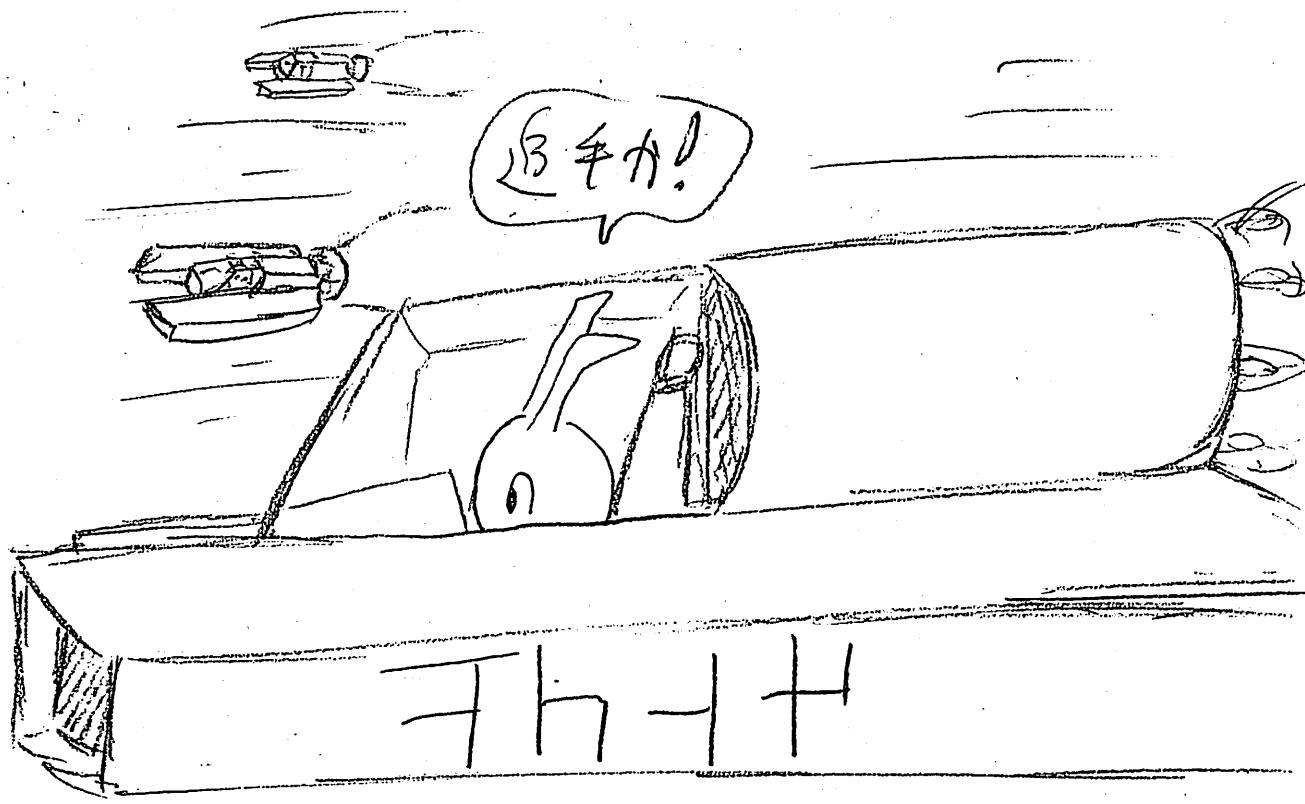
トモジリーハ

第1話 宿命の出会い

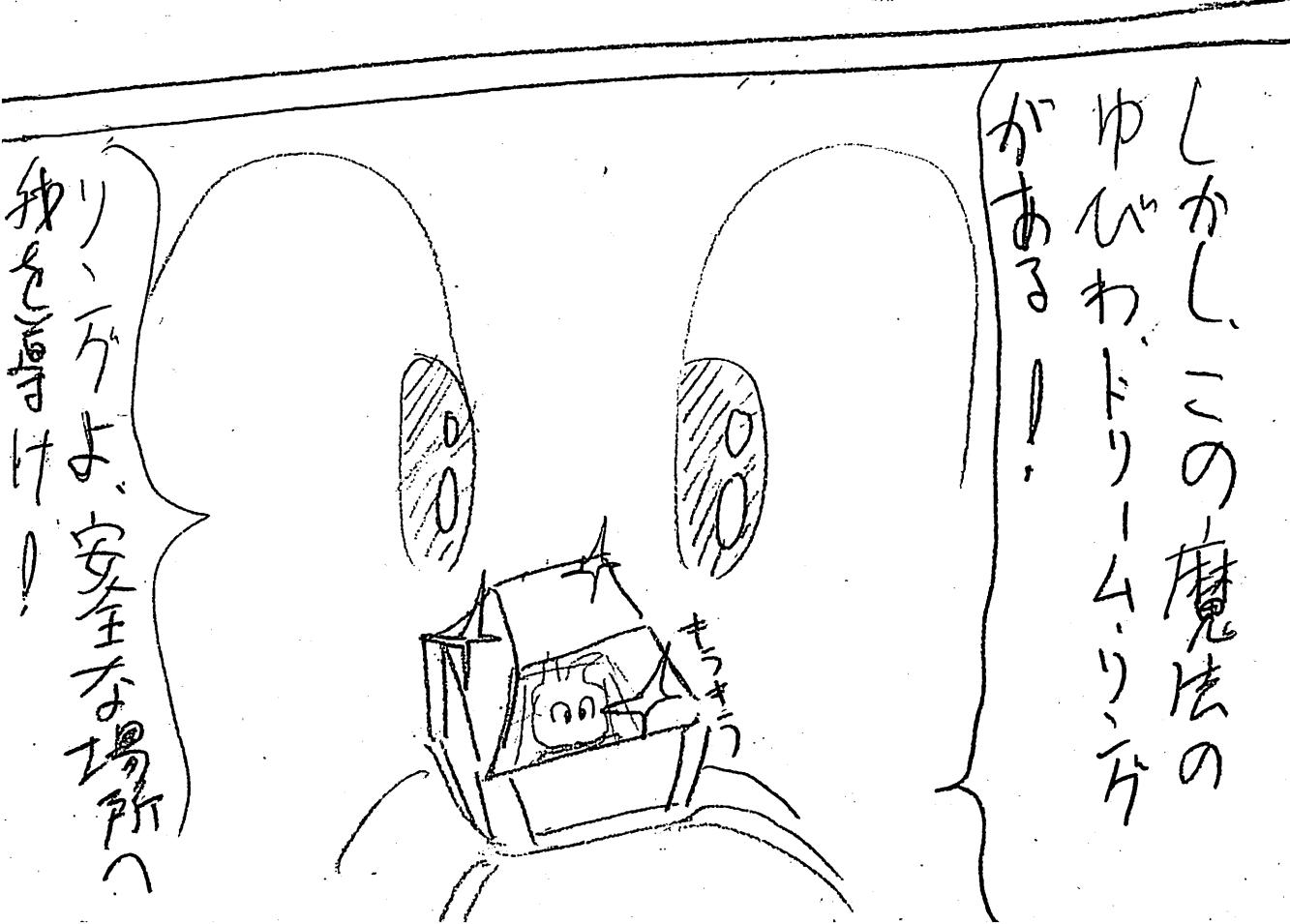


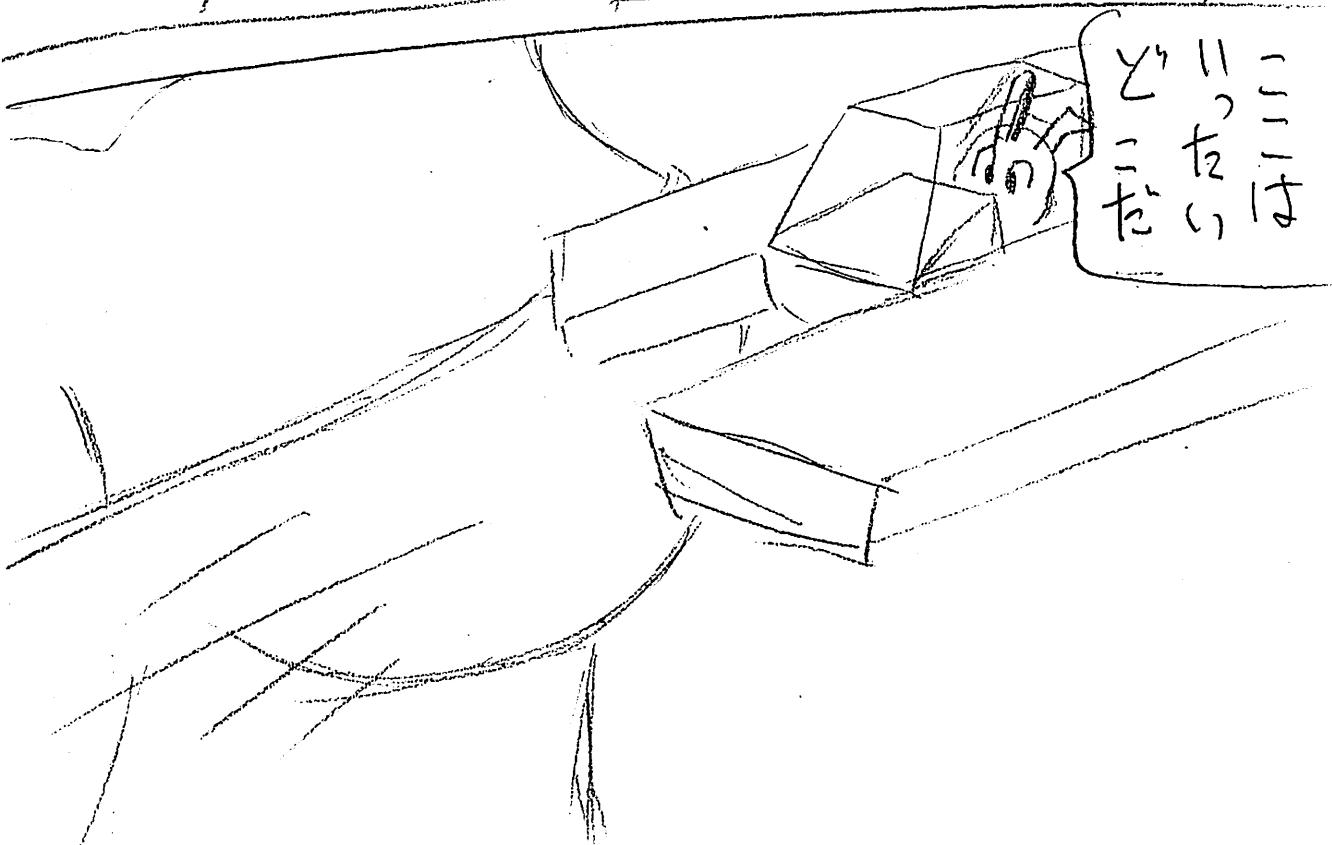
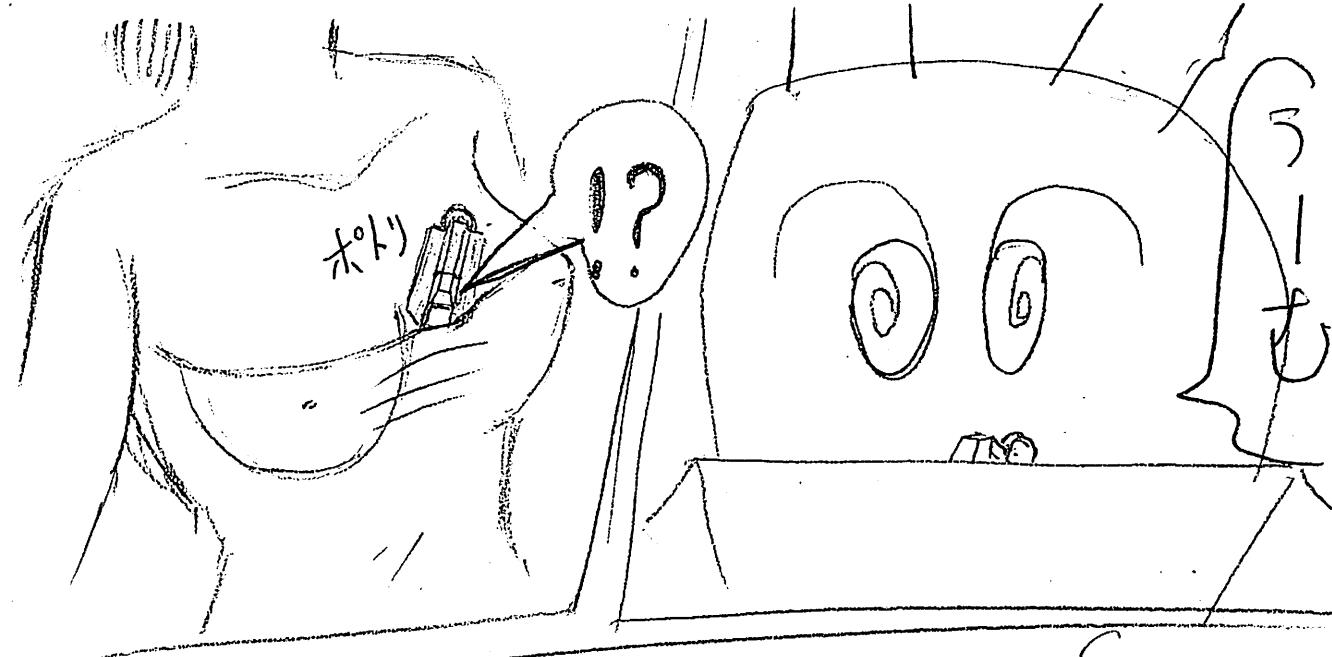
1: H3 + 12 H3 ~

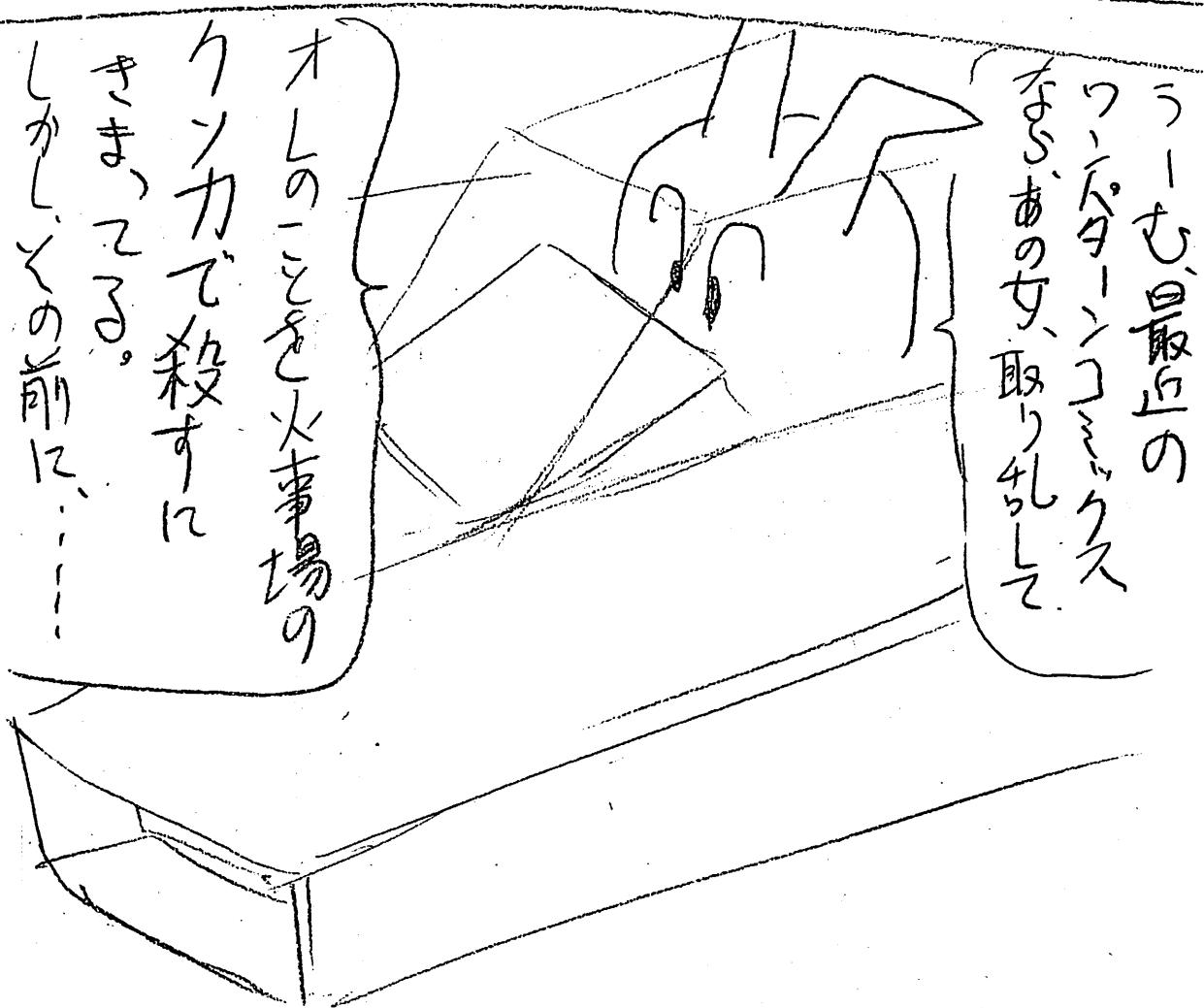
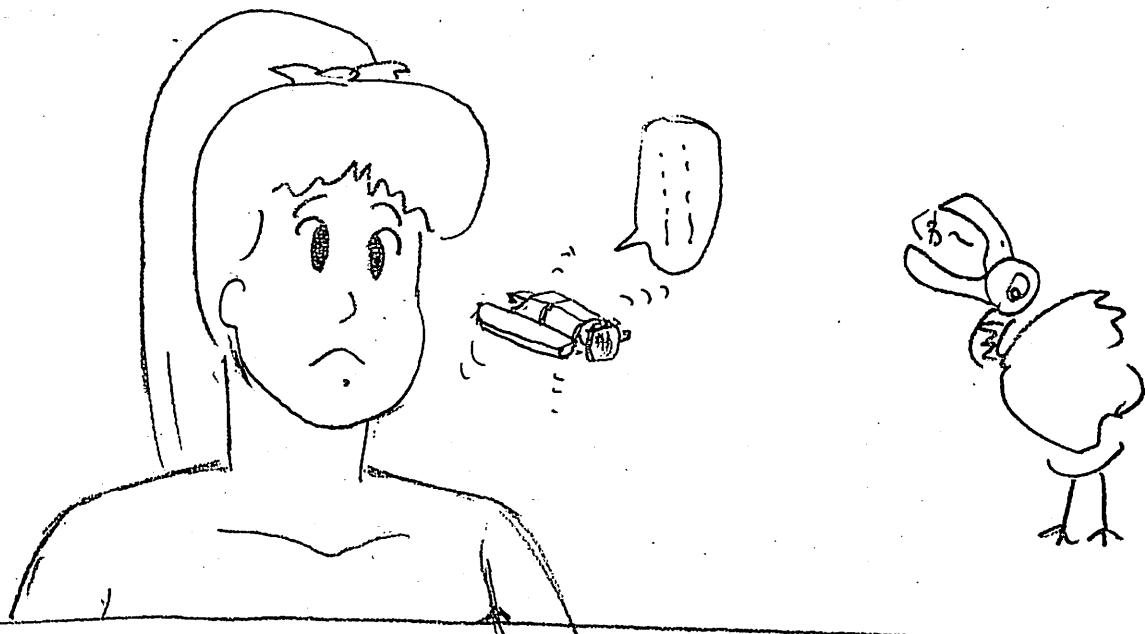


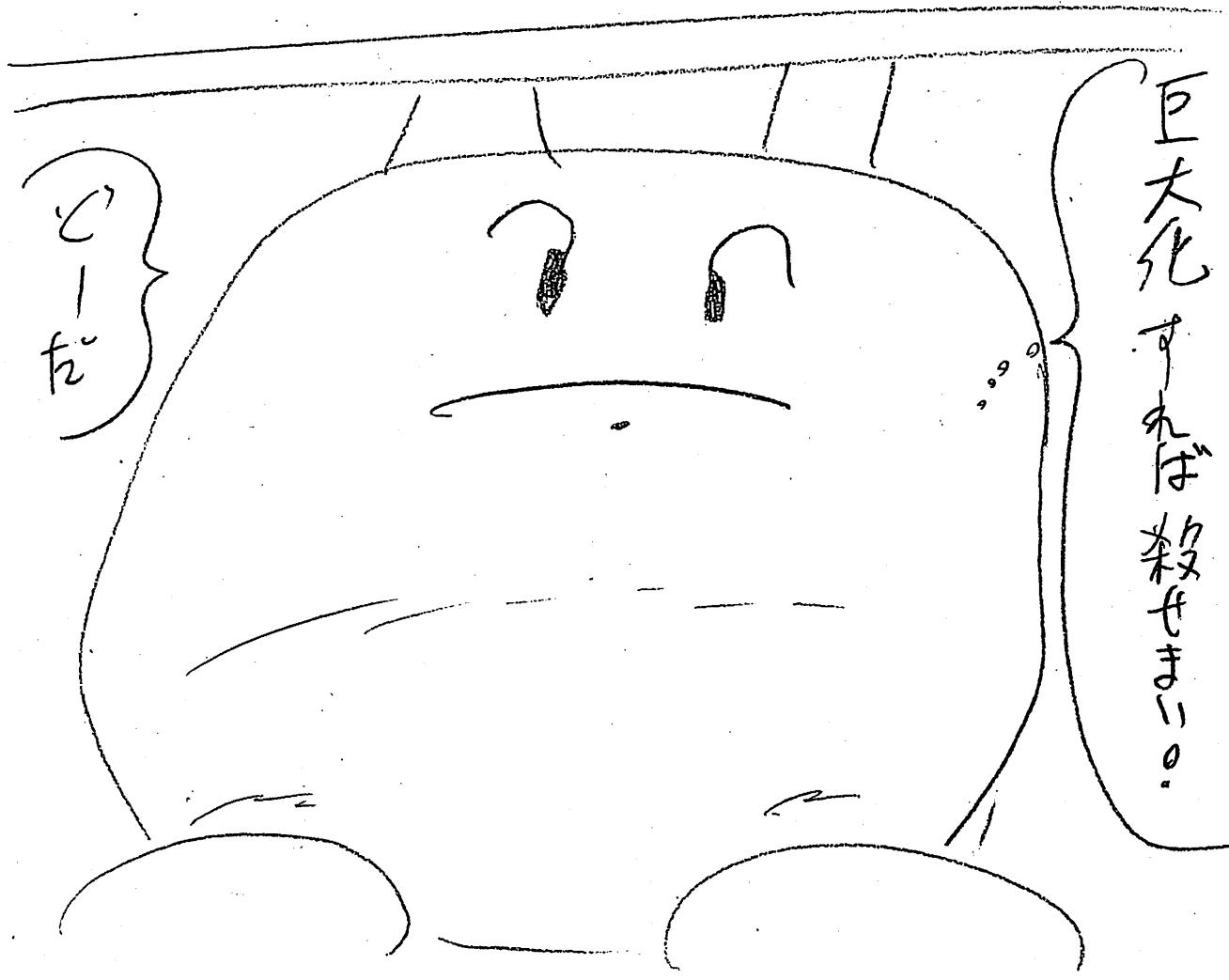


トトトト







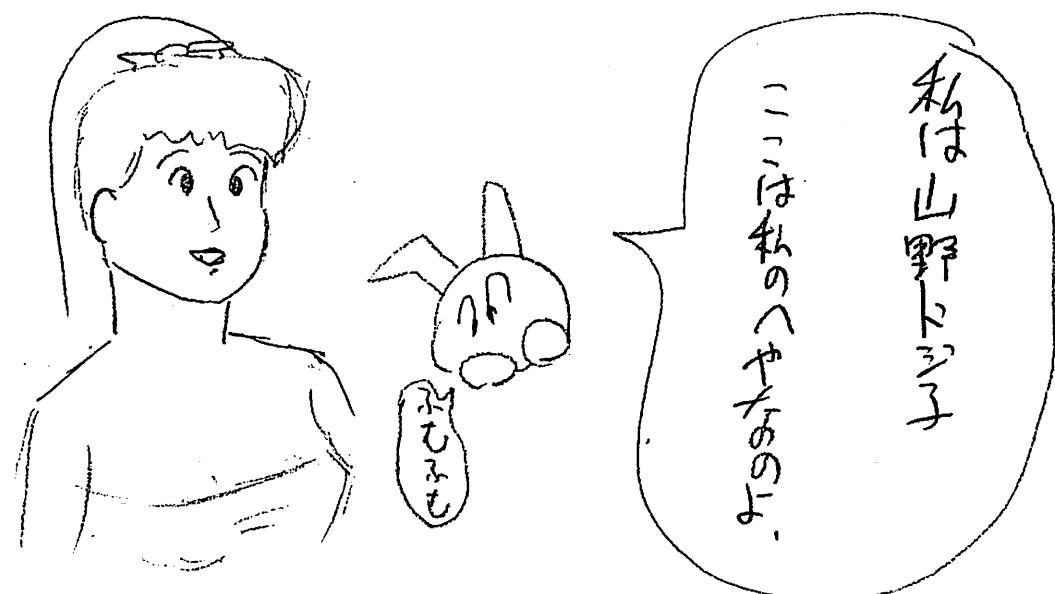
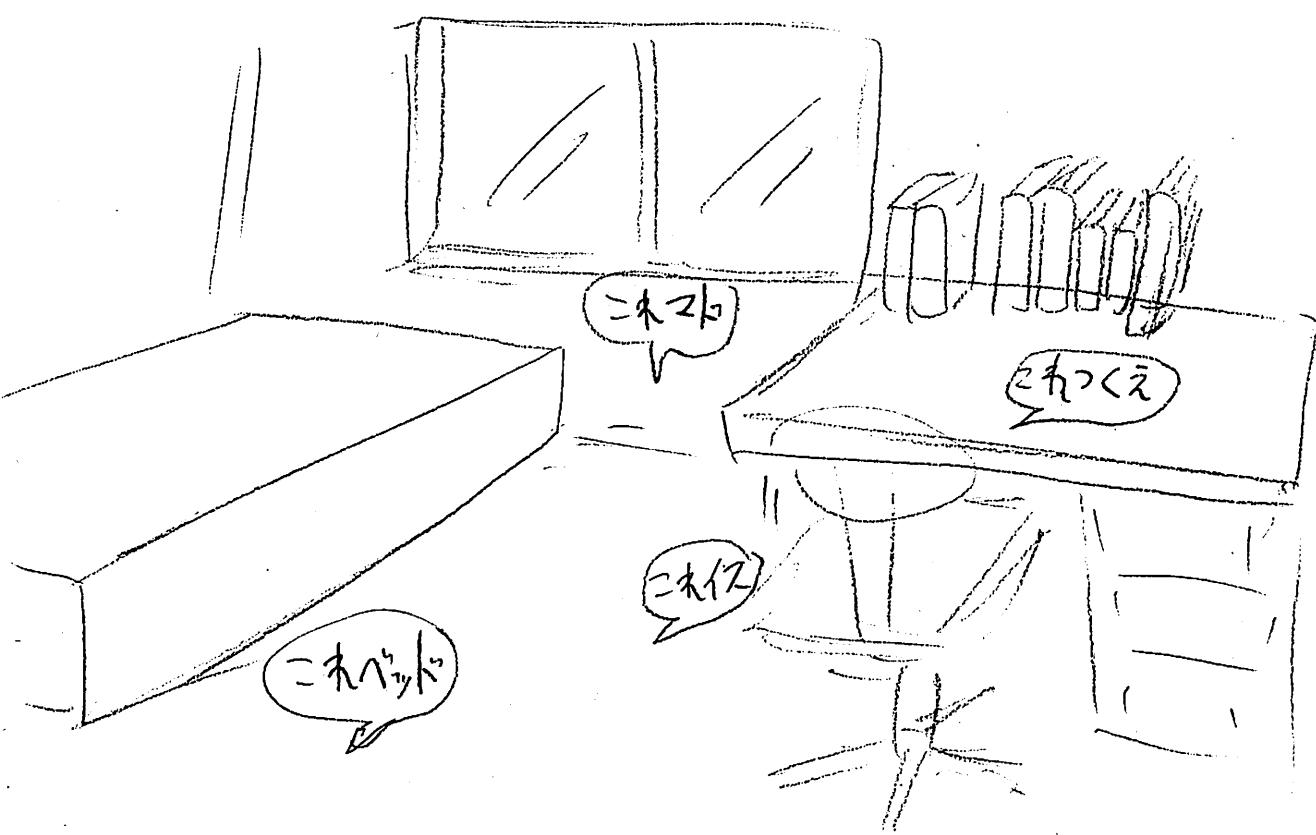


か
かい

!!まーさ
パウード足本な?

オ
しは
や
ー
サ
と
う
者
た
が

こ
そ
の
あ
か
た
ー
ー
は
ー
ー
君
は
だ
れ
?



と木はーーとして、
しかじオレをみても、
なんでおどろかなかった?

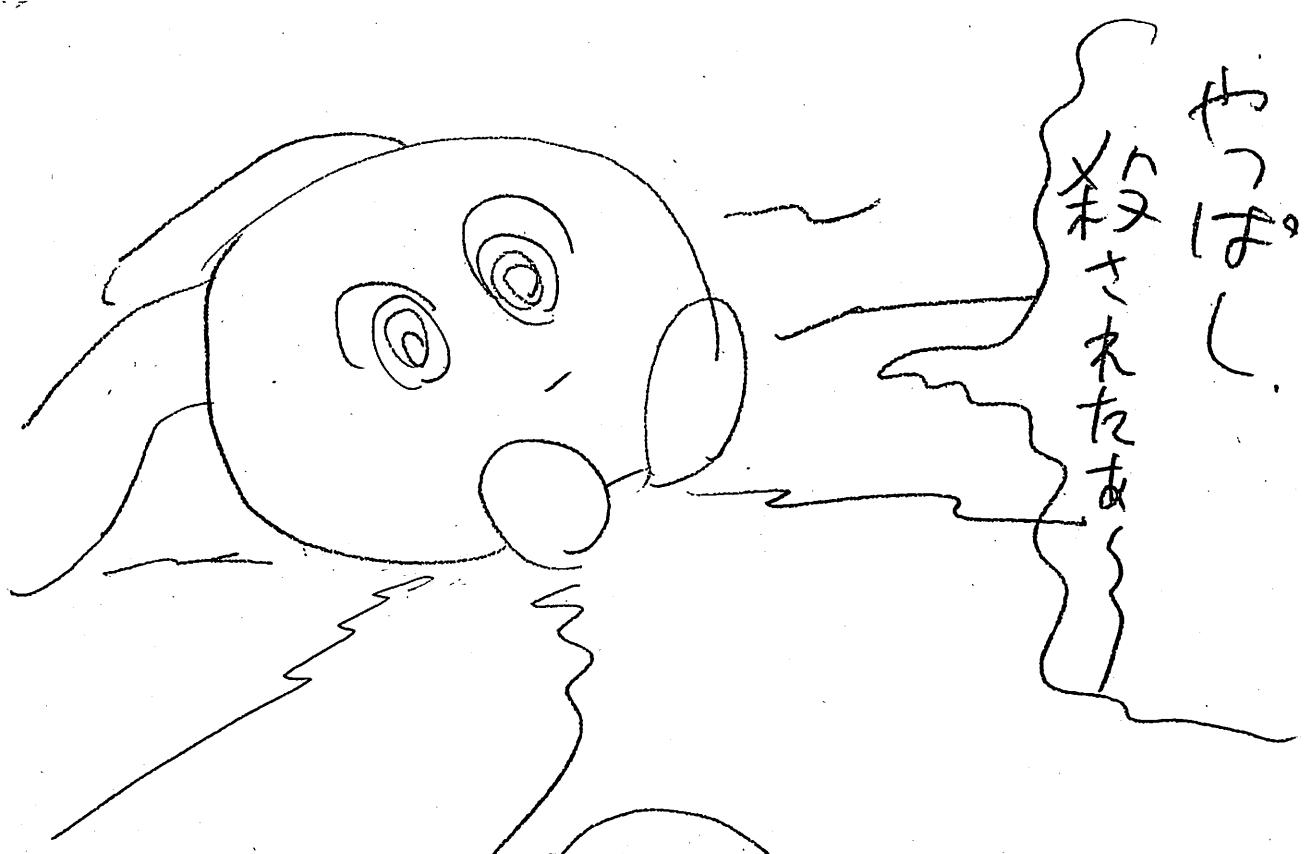
かまれてた

キヤー どうりう

竿うながー

普通は

エッ4!



せ
は
（

ハヌタれたま

It's - Within

非あゆたわ

33

一の変な生物にしても、何にしても

其のまゝ

超人少女ドジーム 第2話 夢指輪の伝説

セーラー服①道ある。

導入。④「ゆうべは何か変なことがあつたような気がするわ」

友「おはよう、ドジ子。」

友「あら、すごい指輪

ト「え、?」

考えこむ④

空中のウ「ふふふ、ドリーム・リンクのかくし場所には、それが
不自然でない場所が一箇所あるから女性の指輪だ」

友「きれいだけど...」

ト「かわいいじゃない。」

友「そんな不得体のしないもの持てないなさいよ」

ト「どうも、ハイと持てる。」

空中のウ「あたる、「あたる！」

指輪いこうウ「とりえず、彼女の指輪かくしておかなくては、
仲間と連絡を取りに行けない！」

N このときウーザは思い違いをしていた。この地球上に何十億の
女性が生きていて、何もドジ子にこだわらずとも他にいく
つでもかくし場所があるとは、全く想像もできまい
ことであった。

ウ「ドリーム・リンクよ、我が声をあの女性の内なる心に伝へ
せよ」

ト「たれ？ 私を呼ぶのはだれ？」

友「どうしたの、ドジ子！」

ウ「何もきかずれ、この指輪をあずかってくれ。」

ト「やひわ!?」

⑦ 「この指輪はドリーム・リングと/or/て、何でも望みの力なう魔ほの指輪だ。今、このドリーム・リングを宇宙の破壊者、悪の帝王があつてはいる。やつに指輪をあたさなくてはきまん。」~~まつせ~~、この指輪をあたかてほしい！」

⑧ 「いいほど、あなたは？」

⑨ 「ウーザ。ゆうべのよ」

幼い少年⑩

⑩ 「大丈夫？」

⑪ 「ゆくわが……手をみ？」

⑫ 「不思議な」

⑬ 「わたし、このゆくわをもつてはことにやまか」

⑭ 「あんたがトシまだHでよく、移り気ななんて矢張がな」

⑮ 「うーも、こんなに力がいると半分死んで、

もっとかーいーおーちゃんにあたるんだった……」

⑯ ひとつ見てみる。